

第3回懇談会で頂いた主な意見

第3回石巻市立地適正化計画策定懇談会

日時：令和5年9月1日（金）10時00分から

内容：「居住誘導区域」「都市機能誘導区域」について 等

	主な意見等	
まちづくりの方針 と誘導区域の関係性	①	戦略2「ライフプランに応じた健康で安心できる暮らしの実現」を掲げているが、居住誘導区域（都市型居住促進エリア）は、都市機能の集積や交通利便性、人口密度・人口構成などの定量的指標から設定されており、戦略に掲げているビジョンと区域が連動していないのでは。
	②	都市型居住促進エリア設定に向けた各種条件設定は理解できているが、戦略との関係性が見えない
	③	市として現状をどう変えたいか、どういった将来市街地像を目指しているのかが見えない。案としている都市型居住促進エリアの将来の人口密度が38.7人/haとなることは分かるが、この見通しを計画の策定でどのように変えたいか、あわせてその他のエリアをどうしていくかが見えない。
	④	都市型居住促進エリアはかなり広範に設定されているが、市としてどこに人口を誘導していくという考えになるか。
	⑤	都市型居住促進エリアが広範に設定されていると、立地適正化計画を策定して何を変えたいと市として考えているかが見えない。
	⑥	郊外型居住エリアの位置づけも明確になっていない。定義を明確にしたうえで、各エリアをどういったエリアにしていくかを説明すべきだが、資料では現状と将来見通しを追認するような区域設定になっている。現状及び将来の人口密度が低くとも、将来像によっては戦略的に居住誘導区域を設定することも考えられる。
	⑦	最終的なゴールとなる都市の姿のイメージが明確になるとよい。目指す都市の姿として、本来の石巻らしさを入れ込んでいくことが大切では。その上で例えば、歩行者や自転車を重視していくのであれば、中心市街地と海を結ぶことをイメージするとよいのでは。また、拠点として位置づける蛇田と石巻駅周辺は交通だけでなく、互いに必要とされる関係性を構築しなければ、2つの都市が隣接するだけになってしまう。
拠点のあり方	⑧	拠点のあり方として、経済活動と身体活動の面から考えると、経済活動では技術が目まぐるしく進歩しており、今では自宅で仕事や娯楽ができるようになっている。今後のまちの姿として、こういった進歩にどう対応し、取り入れていくかを考える必要があるのでは。一方で身体活動の面では、技術が進歩しても人は老いるため、医療、福祉、子育てといった機能は拠点に変わらず求められていくと考えられる。
ネットワーク形成	⑨	本日の資料では拠点や誘導区域の話はあるが、ネットワークに関する話も必要になるのでは。現状、蛇田地区と石巻駅周辺の2つの拠点を公共交通で行き来するのは余り便利でないのでは。2つの拠点のネットワークを強化しなければ、2つの都市が隣接しているだけになり、蛇田地区は高速道路を通じて他都市と結びついてしまう。